



## 地域定着支援

就農者の地域への定着を支援する上で、様々な環境を整えるためのサポートが必要ですが、そのなかでも住宅の確保など、実際に移住する際の受入支援が重要となります。

# 07 | 地域定着支援

FOCUS  
1

## 新規就農者向けの住宅確保

移住希望者が移住先を決め地域に定着するに当たり、自らの生活様式に合った住宅の有無が重要視される。地域の空き家、公営住宅、教職員住宅などを活用し多様なニーズに応えることや、老朽化した建物への修繕に対する支援を行い、地域への移住・定着を促進する。

### 熊本県山都町

#### 山の都地域しごとセンター

#### 空き家を有効活用しスムーズな住居紹介を実現する

山都町では、移住希望者に紹介できる物件の選択肢を増やすため、地域の居住者がいない空き家を紹介している。そのままでは住めない状態の空き家には、町で修繕費を最大75万円助成するなど空き家の活用を促進し、スムーズな移住を実現している。

Case Study

#### ◆空き家バンク制度～(山の都地域しごとセンター)

##### 1、所有者が空き家の情報を「山の都地域しごとセンター」のホームページに登録

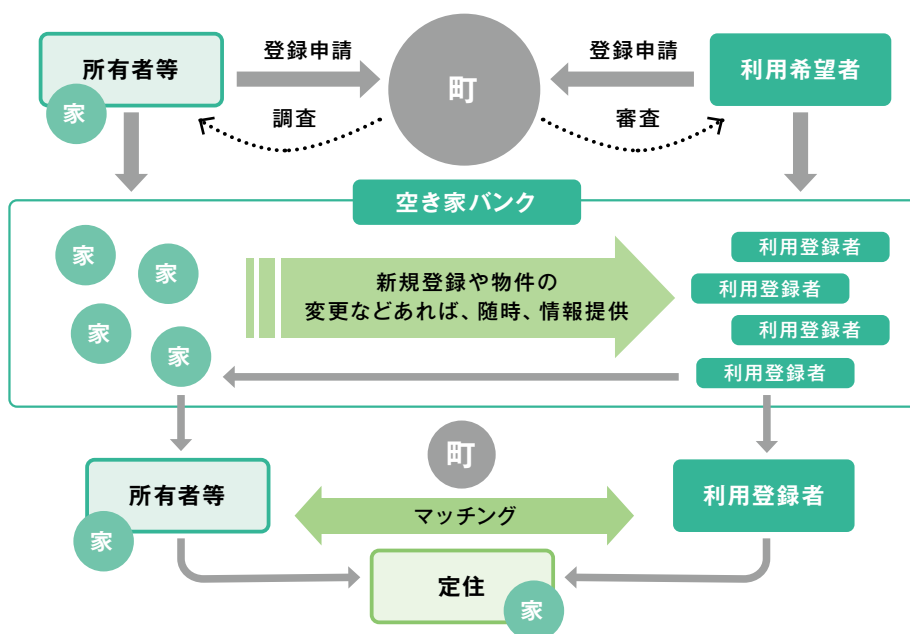
- ▶▶▶ 地域の空き家調査を行い、空き家があれば所有者に登録を促す
- ▶▶▶ 広報紙で空き家の登録を呼びかける
- ▶▶▶ 納税通知に空き家バンクへの登録を呼びかけるチラシを同封

##### 2、移住を希望する人がホームページより物件情報を検索

##### 3、所有者と移住者の契約をサポート

- ▶▶▶ 契約書の雛形を作成

#### ◆空き家バンク制度のイメージ図



山形県大江町

OSINの会

研修生向け宿舎や新規就農者向け住宅を用意し  
手厚い住宅支援で就農希望者への魅力を高める

大江町では、研修生用の寮や新規就農者用住宅を整備し、就農希望者の住宅支援を行っている。就農希望者は農地が決まると、自ら住宅を購入することが多く、研修中から就農して定着するまでの仮住まいとして活用されている。

研修生用寮

家賃	無料
水道光熱費	無料
施設数	2棟(男女用各1棟)
主な使用条件	入居期間最大7年間 就農後も住居が決まらない場合居住可 ※研修中の方の、定着までの仮住まいとして位置づけ

新規就農者用住宅

家賃	月5万(うち4万円を補助)
水道光熱費	上限1万円を補助
施設数	5棟
主な使用条件	入居期間最大7年間 ※研修中の方の、定着までの仮住まいとして位置づけ



単身者向け女子寮



家族向け住宅

長野県豊丘村

都会の生活様式に合った物件を紹介する工夫

豊丘村では、都会から移住してくる新規就農者へ都会の生活様式に合った物件を紹介するため、空き家のリフォームを村独自に行い、水洗トイレやシャワーなどを整備する。移住担当者が、マンツーマンで丁寧に対応し、移住希望者の要望を細部にわたるまで汲み上げている。

# 07 | 地域定着支援

FOCUS  
2

## 地域コミュニティへの参画支援～地域農業者との交流～

新規就農者に安定した農業経営を継続させるため、地域コミュニティに参画しやすいよう支援する。4Hクラブ（農業青年クラブ）やJA青年部への参画サポートに加え、気軽に相談できる先輩農家などの存在が、新規就農者の農家経営を軌道に乗せるための基盤となる。

### 岐阜県高山市

#### 関係者との共同作業「結（ゆい）」で地元コミュニティへの 溶け込みを促進する

高山市では、就農者同士のネットワークづくりを目的に、「結（ゆい）」の取組を行っている。これは、新規就農者が独立する際のハウスの棟上げ作業を、先輩就農者、自治体関係者、研修生、受入農家等が協力を集めて、協力して行っている。

この取組はこの地に古くから伝わる家の茅葺<sup>かやぶき</sup>屋根の取り換え作業「結」から来ている。

先輩就農者など近くの農家とトマトの苗植え等を協力して行ったりするケースもあり、就農者が孤立しない仕組みになっている。関係者一同で共同作業を行うことが地域コミュニティへの参画のサポートとなっている。



Case Study

### 熊本県山都町

#### 交流の機会を作り新規就農者の人脈づくりをサポートする

山都町では、研修生と地域の関係者が一堂に会して交流の機会を設けることを目的に、研修報告会を開催、研修生は自己紹介を含めた報告を行う。報告会後は交流会も催され、研修生との地域コミュニティとの接点として機能している。

##### ◆山都町研修生報告会

参加者	研修修了生・先輩新規就農者（就農1～2年目）・地域の受入農家・町長・来年度の研修予定者・行政関係者など
内容	・研修生が「どのような研修を行ったのか」報告 ・受入農家が「研修生の人柄」などコメント ・先輩研修生が「独立後の現在の経営状況」など報告



Case Study



## 北海道富良野市

### 子育てママの農業体験、体験の際の託児をサポート

富良野市では、農業体験会を市の事業として毎年開催。体験者には女性もあり、その中には子育て中の方も含まれることから、体験会を開催する際の託児について、市が託児スペースを借り、託児をネットワーク団体へ依頼をすることで、子育て中の女性の体験受入も無理なく可能な体制を構築している。

体験会終了後には労働力の受入れが可能な農家リストを体験者に渡しており、短時間の労働や急遽の休暇取得を認めている、作業場所のトイレなどの環境が整っていることなど、子育て中の女性が柔軟に働ける農家をリスト化しており、体験者の中から就農する女性も多い。



Case Study

## 北海道栗山町

### 親元就農者、新規就農者に嫁いだ女性を集めて交流会を開催

栗山町農業振興公社では、町内の親元就農者、新規就農者と結婚した女性を集めて、「くりやま農業女性塾」を定期的で開催している。

新規就農は、就農者本人へのサポートは手厚いが、その家族までサポートが回っていない場合が多い。同町では、結婚し同町へ来た女性が孤立してしまわないよう、同じ境遇の方同士が集まってざっくばらんに交流することを目的として、この塾が始まった。

活動内容は、料理教室、町内の施設見学、野菜栽培講座等、レクリエーションが中心である。また、1回の講座は2時間単位で、家事・育児に忙しい主婦も参加しやすいよう心がけている。

さらに、公社が塾の開催案内を送付する際には、女性本人ではなく、世帯主（親元就農なら義父、新規参入なら夫）に送付することで、女性塾へ参加することを気兼ねなく後押ししてもらえるよう、心がけている。



Case Study

